くにびき通信

2024年12月号

大田市山村留学センター　三瓶こだま学園

はじめに

今年は、早くから雪が降り始めました。子ども達は寒さをものともせずに外に出て雪遊びをし、雪投げや雪だるまを作る事に夢中です。センターの中にいても楽しそうな声が響いてきました。

秋には 20 周年記念式典や収穫祭が行われ無事終わりホッとしている所です。12 月になっても変わらず、勉強や部活、センター活動は忙しいのですが、中には地域の方々との交流会や、センターでの誕生日会といった行事もあり、楽しい思い出ができたことと思います。

いよいよ冬休み、家族と楽しい時間を過ごして、リフレッシュして年明けの 7 日に元気に戻ってきて欲しいです。

令和６年も多くの方々にお世話になりました。来年もセンターと学園生をよろしくお願い致します。

調理員　細川　志津子

活動カレンダー

１１月２３日（土）	祖式町文化祭（太鼓出演）	１４日（土）	たくあん漬け
２９日（金）	センター入り	１５日（日）	上立石交流会
３０日（土）	紙すき体験　犬島猫島めぐり	２０日（金）	（小中）終業式
12 月　１日（日）	AM トライ塾	２１日（土）	２学期誕生日会
	PM 大根抜き　畑の片付け	２２日（日）	AM　大掃除
６日（金）	農家入り		PM　山留米配り
１３日（金）	センター入り	２４日（火）	帰省

祖式町文化祭　　１１/２３（土）　曇り時々雨

大田市にある祖式町という地区の文化祭で太鼓の演奏をしました。最初は外で叩く予定でしたが、ちょうどみんなの出番になると雨が降り始め、急遽中の会場で叩くことになりました。収穫祭でも披露していることもあって、新入園生も自信をもって叩けるようになってきました。秩父屋台囃子、ぶちあわせ太鼓、三宅島太鼓と３演目やらせていただきました。

この日のお昼は、お小遣いをもらい自分で屋台のものを買って食べました。普段お金をは持たない学園生は、何をどう買うか悩みながら買っていました。中には一緒にお金を合わせて高いものを買ったり、農家さんのお土産を買ったりしている子もいました。祖式町の文化祭には神楽の上演もあり、いつも見ているものとは違う演目もあり、興味のある子は熱心に見ていました。

紙すき体験・犬島猫島めぐり　　１１/３０（土）　曇り

今年度の修園賞にするための和紙を作りに、浜田市にある石州和紙会館に行きました。着いて挨拶した後にビデオを見る人と、体験する人の２グループに分かれて体験しました。体験前は上手にできるか心配していた子もいましたが、スタッフの方に丁寧に教えてもらいながら、誰もが立派な和紙を漉くことができました。

その後は、浜田市世界こども美術館で開催されている企画展「光と影の不思議展」を見に行きました。子ども達は色々体験することができたり、光と影を使ったアートに魅了されたりして楽しんでいました。

そして、次はせっかく浜田まで来たので、収穫祭の民話劇の題材となった“犬島”“猫島”を見に行きました。犬島猫島は国の天然記念物に指定されている石見畳ケ浦があるところにありました。道中では、劇中に出てくる地名などが出てくるとセリフを喋りだす子もいたり、「どんな形だろう？」「どっちが小さいんだっけ？」などと話したりしている子も。実際本物を目にした子ども達は島へ向かって走っていました。今回は浜田の文化や自然を堪能した１日でした。

トライ塾　　１２/１（日）　AM　曇り

子ども達が数学の世界を楽しく学ぶための教室が、地域の主催で行われました。地域の子ども達も何人かセンターに集まり、数学好きな先生たちから、数字にまつわるゲームやクイズ、折り紙で多面体作りなど教えてもらいました。難しいのから簡単なものまで色んな遊びがありましたが、時間があっという間に終わってしまうほど楽しみました。

大根抜き　畑の片付け　１２/１（日）　PM　曇り

畑の最後の作業をしました。畑に残っているのは、大根と白菜、ピーマンなどがありました。これらを全部取って、畑を耕す人、電柵を片付ける人、大根を洗う人に分かれて作業しました。大根はたくあん漬けにするために洗って干しました。みんな手際よく作業をこなし、あっという間に終わってしまいました。大根の葉っぱでふりかけを作りたいと言って、何人かで厨房で作ってました。美味しいふりかけができてみんなご飯が進んでいました。残りの野菜もみんなで美味しくいただきたいと思います。

たくあん漬け　　１２/14（土）　AM　雪

２週間ほど干しておいた大根を使ってたくあん漬けをしました。月森の母さんに教えてもらいながら、大根と塩、米糠を使って漬けました。計測をして、塩、糠の重さを計算して用意し、準備が整ったら、母さんに漬け方を教えてもらいながら、一緒にやりました。４０本ほどだったので、作業はあっという間に終わってしまいましたが、自分たちで食べるたくあんがどうやってできるのかを知ることができました。１か月ぐらいしてから食べ始められるそうなので、楽しみに待ちたいと思います。

上立石交流会　　１２/１５（日）　雨のち曇り

上立石地区の方々と、餅つきをして交流をしました。学校の田んぼで作ったもち米をもらい約２０kg を餅にしました。学園生は順番に餅を搗く人と、餅を丸める人に分かれてそれぞれ体験をしました。餅つき場では、地域のお父さんたちが搗き方を教えてくれました。慣れない杵で餅を狙いますが、なかなか思うようにいい所に杵を振り下ろすことができない子もいれば、しっかりと真ん中に振り下ろす子もいました。搗いた餅をお母さんたちと丸めましたが、こちらもコツがいり、上手に丸めるのはなかなか難しい作業でしたが、ベテランお母さんたちに教えてもらいながら全部で４５０個ほど丸めました。残った餅は昼食に食べるようにきな粉餅と醤油のり餅にしました。丸めた餅は全員で分けて地域の人は持ち帰り、学園生は帰省時に持ち帰りました。

昼食はみんなでカレーを食べました。地域のお母さんたちからも、漬物や煮物などの差し入れがあり、美味しくいただきました。昼食後はビンゴ大会をして盛り上がり最後は片づけをして終わりました。なかなか地域の方々と交流する機会がないので、いい交流の場になりました。

２学期誕生日会　１２/２１（土）　雪のち雨

この日はみんなで準備を進めてきた２学期の誕生日会を行いました。午前中は、若干の雨模様の中でしたが前日まで降った雪の中でレクレーション①として雪上運動会を行いました。くじ引きで２チームに分かれ、ソリ引き競争、雪だるま作り競争で盛り上がりました。最後に雪合戦をするつもりでしたが、雨が強くなってきたので屋内に入って人狼ゲームを楽しみました。

午後からは料理と会場など係に分かれて準備をはじめ、１８時には誕生日会がスタートしました。子どもたちが作ったパスタやグラタン、チュロスなどに舌鼓を打ちつつ、お腹いっぱいいただきました。最後にレクレーション②としてスノーキャンドルの点灯。幻想的な空間の中で学園歌って誕生日会は幕を閉じました。

大掃除　　１２/２２（月）　AM　雪のち雨

学期末＆年末ということで、みんなでセンターの大掃除をしました。今回は、１階２階のトイレ、風呂、食堂、そして２階の男女洗面所掃除に分かれて、普段の掃除では行き届かない場所を中心に午前中いっぱい掃除をしました。いつもの掃除では出来ないところを中心に掃除をしました。窓やドアの桟、便器の尿石落とし、洗濯機の隙間汚れ、お風呂のカビ落としなど、普段気になっているけどなかなかできない場所をそれぞれが見つけながら掃除に取り組みました。目立たない場所ではありますが、それらをきれいにしたことで、みんなの心もさっぱり。気持ちよく新しい年が迎えられそうです。

山留米配り　　１２/２２（日）　PM　雨

４月から様々な活動を行う中で、お世話になった方々に、自分たちが作った新米を届けに行きました。北三瓶地区にお住いの方々から、海の活動でお世話になった魚津や島津屋の方面へも出掛け子ども達の手で挨拶しながらお米を渡しました。

西村崇司のつぶやき

＼火をつける（私見１）／

数年前からソロキャンプがブームのようです。ひとりぼっち（ソロ）に限らずキャンプは楽しいですね。山村留学に参加する子どもたちにも大人気です。おそらく、自然の中で居場所をつくり、日中帯あるいは泊付きで過ごすという非日常性を本能的に欲しているからだと思います。逆な言い方をすれば今を生きる子どもたちが住んでいる地域ではキャンプができにくい環境なのでしょう。１年間センターで過ごす長期留学生は１年を通じて、デイキャンプ、２デイキャンプ、ソロキャンプというように手順を踏んでスキルアップしながら山や海でキャンプをしています。さて、キャンプのだいご味と言えば「火を使う」ことでしょう。火は暖をとる、明るさを確保する、煮炊きをするのに必需品です。その火、お金をかければガスボンベや電化製品を持ち込むことで調達が可能ですが、センターでの着火は「マッチで火をつける」方法をとっています。よくわからないですが、電化製品が一般家庭に普及した昭和４０年代の前半頃までの田舎の子どもは日ごろの生活の中で男女問わずマッチを使っていたはずです。すでに、マッチ棒をマッチ箱の側面のざらざらしたところで擦って火をつける「安全マッチ」でしたが、ガンマンがタバコに火をつけるときマッチ棒を革靴や壁にシュッと擦って火をつける古いアメリカ映画の西部劇の強い記憶があったので、この「万能マッチ」がなぜ日本では使われないのかいつも不思議だったことも良い思い出です。日本ではひょんなことから火災を起こさないよう安全性を優先したと知ったのはずいぶん大きくなってからです。

さて、私たちの子どもの頃は、マッチを使って火をつけることは、たとえば男の子は風呂炊き（ゴエモン風呂を薪でわかす）、女の子は煮炊きのカマドで火をおこすといった家庭の仕事の手伝いの一環でしたがあくまでも「屋内」のできごとが多かったと思います。「屋外」で火を使うことはある程度の年齢に達っするまでは大人同伴が義務でした。火事がおそろしいので大人だけの作業でもずいぶん注意を払って野焼きや炭作りをしていた光景が記憶にあります。ですから、屋外で火を使う場合は、１）大人同伴　２）風がある、乾燥している場合はやってはいけない　３）火をつかう場所の１間（いっけん。約１.８m。目安は大人が手を広げた長さ）の範囲の燃えやすい物は取り除く　４）水バケツを用意しておく　５）サデカキ（熊手）と鎌を携帯、といったことが暗黙のルールだったです。ですから、センター活動で屋外で火を使う場合は、こういった基本ルールを作って守ることが前提となり、怠る場合は火は使わせない、といった厳しさが必要だと考えます。（この稿、続く）

「くにびき通信」2024年12月号

大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy

〒694-0002 島根県大田市山口町山口1694
TEL: 0854-86-0700　FAX: 0854-86-0701　Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp

大田市山村留学センター
公式ホームページ

バックナンバー